

## 第 75 回 教育研究評議会議事要旨

日 時 令和 5 年 6 月 6 日 (火) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室 + ウェブ (Zoom) 併用

### 出席者

【構成員】 山内議長、足立評議員、内丸評議員、岡田評議員、幅評議員、高橋評議員、青木評議員、雨宮評議員、大井川評議員、加藤評議員、河村評議員、久世評議員、小杉評議員、小関評議員、小林評議員、齊藤評議員、菅原評議員、飛山評議員、中野評議員、中畑評議員、波戸評議員、花垣評議員、廣井評議員、福村評議員、真鍋評議員

【オブザーバー】 住吉監事、五味田総務部長、山崎財務部長、永木研究協力部長、外山施設部長、幸田参事役、柴沼参事役、櫻井人事労務課長、永見主計課長、岡田研究協力課長、佐藤施設企画課長、柴原東海管理課長

### 配付資料

1. 教育研究評議会名簿 (第 7 期)
2. 第 72・73・74 回教育研究評議会議事要録
3. 令和 4 年度自己点検結果について
4. 人事異動
5. 客員研究員の選考結果について
- 6-1. 令和 6 年度概算要求について
- 6-2. 令和 6 年度概算要求 (施設関係) スケジュール
7. 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について
8. J-PARC センターの運営体制について
9. ILC の現況報告

### 議 事

1. 評議員の交代について

山内議長から、資料 1 に基づき、4 月 1 日付けで新たに評議員に就任した廣井 善二 氏 (東京大学物性研究所長) の紹介があり、挨拶があった。

## 2. 第72回、第73回及び第74回議事要録の確認について

山内議長から、資料2の第74回議事要録は事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

## 3. 審議

### (1) 令和4年度自己点検結果について

足立評議員及び岡田評議員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

## 4. 報告

### (1) 人事異動

山内議長から、資料4に基づき報告があった。

### (2) 客員研究員の選考結果について

山内議長から、資料5に基づき報告があった。

<主な質疑・意見>

- ・加速器研究施設客員研究員一覧中の野田 耕司 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事は理事を退任されている。

→確認の上、訂正する。

### (3) 令和6年度概算要求について

内丸評議員から、資料6に基づき報告があった。

### (4) 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について

岡田評議員から、資料7に基づき報告があった。

<主な質疑・意見等>

- ・外国人留学生奨学金は、どこからの寄附が多いのか。

→高エネルギー加速器科学研究奨励会（奨励会）からのまとまった寄附の他、OB/OG等個人からの寄附も半分以上を占めている。当初はより広く募ることを検討していたが、一般にアピールすることが難しく奨励会と個人からの寄附で成り立っている。

- ・自助努力に励んでいただきたい。

→最大限努力する。

### (5) J-PARCセンターの運営体制について

小林評議員から、資料8に基づき報告があった。

### (6) ILCの現状報告

山内議長から、資料9に基づき報告があった。

#### 4. 研究活動報告

(1) 齊藤評議員（素粒子原子核研究所長）から、素粒子原子核研究所の研究活動状況について報告があった。

(2) 小杉評議員（物質構造科学研究所長）から、物質構造科学研究所の研究活動状況について報告があった。

(3) 小関評議員（加速器研究施設長）から、加速器研究施設の研究活動状況について報告があった。

<主な質疑・意見>

・中規模施設では、老朽化が進み、改修に費用も時間も費やす中で維持費の復活を望む声が多く聞かれる。大規模施設でも同様の問題は起こっていないか。

→老朽化対策への予算はなかなか措置されないため運転経費から捻出している。大規模施設でも維持費の復活を望む。

(4) 波戸評議員（共通基盤研究施設長）から、共通基盤研究施設の研究活動状況について報告があった。

(5) 羽澄量子場計測システム国際拠点長から、同拠点の研究活動状況について報告があった

<主な質疑・意見>

・カシミール力は理論研究だけでなく実験を行うのか。

→実証することを検討している。

・カシミール力の距離のスケールはどのぐらいになるのか。

→マイクロより小さく、サブミクロンの領域になる。

#### 5. 自由討論

・ヨーロッパでは、大規模プロジェクトの一部を大学で実施している。また、そのような取組は人材育成の場としても有用である。何か加速器研究施設で実施している取組はあるか。

→非常に重要なポイントであると認識している。文科省から KEK へ新たな加速技術や加速方式の研究開発に係る補助金が措置された。これを用いて外部の若手を巻き込んだ新たな加速器の研究開発に踏み出していく企画を始めたところだ。

・加速器の大学とのネットワーク構築や教育用加速器についてはいかがか。

→大学に加速器研究室が少なくなっている中で、学生が実際に加速器に触れる機会を提供する等の目的で、新たに整備した教育用加速器（KETA）を用いた実習及び講義を IINAS-NX 事業（加速器科学国際育成事業）の枠組みの中で昨年度末から開始している。学生や企業の若手に経験の場を提供する重要な活動である。

・電気代の見込みはいかがか。

→非常に厳しい。燃料調整費が3月をピークに下降傾向にあるが、それでも従来の値の2倍近くと非常に厳しい。

・大学と KEK の関係について、教育まで含めたネットワークの再構築が必要ではないか。以前は大学で基礎研究を行い、その結果を基に大型施設において実験を実施する流れがあったが、徐々に大学

で基礎研究を行う先生が大学から大型施設へ移ってしまった。その結果、次世代を担う研究者や技術者の育成が困難となる悪循環に陥っている。能力のある先生方が定年を迎えられる中、今が最後のチャンスであり、国策としても検討いただきたい。

→大学へのサポートを含めた仕組みを取り戻せればと思うが、運営費交付金の削減が続いており、その結果大学へのサポートが手薄となったのは指摘のとおり。大学の皆さんと連携を深めつつ支援をするという以前の姿を取り戻すことを考えるべき。

→分室を設置するなど大学との交流を深めていく方向ではあったが、資金面でのサポートはできていなかった。KEKに人が集まる仕組みを広く検討したい。

→大学と大学共同利用機関が一緒になって開発するための予算の確保が難しい状況。人材育成のためには、利用者とスタッフを二極化させず、開発・高度化において両者が連携することが重要である。そのような状況にない共用施設では人材不足が深刻な状況にある。人材育成は学術施設の強みであるので、学術施設で連携しながら取り組んでいく。そ文科省にも支援を訴えている。

・若手の無期雇用のポストが無い。優秀な若手ほど将来に見切りをつけて民間へ流れてしまっている。ポストの確保方法を工夫し、例えば大学とジョイントポストの形で協力してポストを無期で雇うのはどうか。

→どのような制度を作るかが問題、まだ議論が深まっていないが、そのような方向を検討していきたい。人件費の問題をどのように解決するかが一つのボトルネックになっている。シニアの人件費を若手に割り振ることで大きく数を増やすことができるので、人件費の配分を考えていく必要がある。

→入口は広く、キャリアアップに従って段々と狭くなるピラミッド構造をしっかりと構築する事が重要。そうなるように工夫をしているが、全体の数が増えていかないのが現状。KEK全体として予算をうまく使って人を増やすようなシステムにはなっておらず、そこが課題。

→定年延長や再雇用年齢の引き上げもあり、人件費は非常に厳しい。財源の多様化で人件費を確保する方向で進めていく。

→人件費そのものは右肩上がりだが、そのほとんどが任期付きのポストに割り当てられているのが問題。人件費を任期付きポストに使うか無期雇用のポストに使うかは我々の問題。

→人件費はあるが時限的なものなので無期で雇用できない。いくつかの機関で協力すれば無期雇用のポストに人件費を使えるのではないか。

## 6. その他

山内議長から、閉会の挨拶があった。また、次回の評議会は11月22日に開催するとの案内があり、閉会した。

以上